

物をそれぞれ割り当てました。また、ノンリ、イソラム、イコリキナの3人は石狩に帰らせました。

3月4日

暖かな日です。ここ上川に暮らすアイヌたちを呼び集め、旅の安全の祈りを捧げました。私もイナウを捧げ、神酒^{みき}と一緒に飲みました。アイヌのひとりが言うには「川の水が急に減っていますが、これは上流の水が凍つたからで、山々が冷えて寒くなりますよ」とのことです。

3月5日

早朝に出発して辺別川^{へべつ}を越え、クーチンコロの家に着きました。ここでは、昨夜、山から帰つてきたばかりのイソテクが、熊^{くま}を1頭^{かず}背負^せつて私たちの到着を待つていました。

ここから原野の道をしばらく進み、ニヨベツ、ニケウルルホンケシ、トヌシコマナイといった小

川などを過ぎ、シタウナイ、メメトツケシという小川、さらにはシネヒンニウシという小さな丘^{おか}、イワンコンクツシやホロヌ、ホロトウブという小川などを渡りました。この間の小川はすべて辺別川に注いでいます。

ウフシノボリという山のふもとの崖^{がけ}をおよそ10キロにわたって木の根に取り付いて渡り、川幅23メートルほどの辺別川の本流の岸に出ました。川には雪解け水があふれんばかりに勢いよく流れ、ここをどうやって渡ればよいかと考え込むほどでした。すると、はるか上流に大きな木が1本、倒れて川の中に横たわっているのが見えるではありませんか。



辺別川

アイヌ語の「ペ・ペッ」(水・川)から名付けられた。
水が多く流れが速い様子を表している。